

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000374		
法人名	医療法人社団 松島内科		
事業所名	グループホームみのり		
所在地	小樽市緑1丁目16番14号		
自己評価作成日	2010年11月12日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0172000374&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成22年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様ご本人の生活における希望や意欲、可能性、課題などに対して一緒に考えアセスメントやモニタリングをし、ケアプランを作成、入居者様を支えるのは職員と家族の協力が不可欠であることから、支え合う体制を大切に心掛けています。
また法人の理念の他にグループホームの目標を職員全員で考え、作り共有し、実践につなげています。

- 一、笑顔と誠意をもって入居者様を支援していきます。
- 二、入居者様それぞれのその人らしさを尊重します。
- 三、入居者様と幸せで穏やかな時間を共有していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は利便性の良い住宅地の一角にあり、建物は3階建ての1～2階はグループホームとして、3階は高齢者専用マンションとなっており交流も行なわれている。事業所内の廊下は広く、居間や居室は採光が取り入れられ明るく、スプリンクラー、防火扉等を備え安全に配慮した造りとなっている。居室には洗面台とクローゼットが備え付けられてある。ナースコールの設置、夜間は2ユニットで3名の体制で緊急時にも柔軟な対応ができ、安心して過ごすことができる。母体である松島内科は入院病床もあり、休日診療、24時間対応の体制が確立され、利用者の状態が重度化した場合でも医療との連携、協力がなされ、利用者・家族の安心に繋がっている。利用者は、ボランティアの訪問や家族との協力、職員の個別対応で穏やかに自由な暮らしを楽しんでいる。管理者をはじめ職員は法人内外の研修、他の事業所との相互研修を行ない、日常的には業務委員会、身体拘束廃止委員会や各係を設け、利用者に質の高いケアの実践を行なっている。法人は接遇・マナー研修にも力を入れ、毎年全職員が参加している。運営推進会議は定期的開催され、防災対策について討議し、町内会・地域消防団の避難訓練参加へと繋げた。家族との交流、地域との交流には積極的に取り組んでおり、地域に根ざし今後ますます期待される事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はあるが、事業所としての理念はない。事業所独自の目標があり、職員共有して実践に繋げています。	法人の理念に加え、職員間で協議・検討し、事業所独自の目標を掲げ事業所内に掲示している。職員は目標を理解し確認しながらケアの実践に活かしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所近所の商店、薬局を利用し交流を深めている。また地域のお祭りの際は町内会の子供神輿の立ち寄り場所となり、入居者から子供にお菓子を渡す等交流を深めています。	町内会に加入し、利用者は近隣の商店で買い物をするなど、地域との日常的な交流に繋げている。囲碁や事業所の行事には、地域のボランティアサークルの訪問があり、交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	重要事項説明書に記載、玄関ロビー内に掲示しています。家族や地域の方に認知症、グループホームとは何かを回覧板に載せていただき地域の方々に理解を図っています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議に参加し、地域の方の意見を聞き、年間行事開催にあたっての内容検討の際に役立っています。	運営推進会議は町内役員の参加で定期的に行われている。会議では事業所の行事報告や避難訓練への協力について話し合われ、出された意見はサービス向上に活かしている。	行政関係者や地域の方々に事業所の役割を理解してもらう機会とするとともに、今後の地域との交流や災害時の協力要請のためにも、地域住民に積極的な働きかけや、利用者や家族の方々には運営推進会議の意義や役割を十分理解し、参加に繋がるような取り組みに期待する。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	業務上の問題、相談、情報提供を密に行ない、連絡を取っています。	行政には各種申請書類の提出や、利用者の個別的な課題について随時相談し、アドバイスを受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に2、3回のフロアミーティングを通し、入居者のケアに関する話し合いを行ない、職員の意識を高めています。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的にミーティングを行い身体拘束の弊害について確認しながら、拘束のない自由な暮らしを支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修ではないがフロアミーティングにて高齢者虐待防止法について学び、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり、安心して生活していただけるよう配慮している。また制度についてフロアミーティングで勉強し、職員間で情報を共有しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約をされた方はいないが、家族面会時には必ず不安、疑問点がないか尋ねそれに対し十分な説明を行なっています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関窓組に苦情、相談窓口を掲示し、意見交換を設けている。その都度意見など話しやすい対応をしています。	重要事項説明書に第三者や内部の苦情相談窓口を明記し、事業所内にも掲示している。家族には毎月の通信で利用者の様子や職員の異動等を伝え、来訪時には意見や要望等話しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常勤務以外にフリー勤務(R)を週2、3回設け、職員の意見を時間を掛け聞けるよう機会を設け、また月に1度の各事業所代表者会議、全体会議、週1回のフロアミーティングを開催し、意見交換を行っています。	会議やモニタリング等を通じて職員間で意見交換を行なっている。日常的にも個別に意見や提案を聴く機会を設け、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度管理者と代表者が参加する会議を行い、状態説明、提案等を行い職場環境整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人において教育委員会を設置、内部、外部研修を実地し、職員が参加している。法人外の研修に参加できる事が今年は少なかったため、これからはたくさんの研修に参加したいと思います。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度他事業所への訪問、来訪といった相互研修を行い、全体会議時に内容報告をし、職員一人ひとりがサービス向上に努められるよう日々取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム入居する前に本人に入居にあたっての要望等を聞きそれをケアプランにいかし、入居後も細かい観察をし、ご本人の状態をしっかりと把握するようミーティングも行っています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面談を行い、ご家族の意向などしっかり伺うよう対応しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談と入居時の状態をふまえ、早期に生活に慣れていただく事を主にケアを提供しています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に昔の遊び、歌など得意な事や話題の提供を通し楽しんで過ごす場を設け、多くの事を学ばせてくれるという敬いの気持ちを忘れないよう対応しています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日来訪して下さる家族がいらっしゃり、絆を大切にしています。またカンファレンスにも参加され多くのコミュニケーションを取るよう心掛けています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔働いていた同僚が面会に来られたりと馴染みの方も来られ、関係が途切れないよう支援しています。	家族の協力も得ながら、馴染みの美容室や理容室など、一人ひとりの習慣に合わせて馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにソファやテレビを設置し、談話できる場所を提供している。またレクリエーションで交流する機会を持ち、関わり合えるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後も自宅を訪ねたり、連絡を取る等対応し、相談、支援に努めています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをし、ご本人、ご家族、職員間で話し合いの場を持ち、本人本位の目線でケアプランを作成するよう心掛けています。	センター方式の活用、家族からの情報、日々の関わりの中での声かけや発した言葉の記録、表情や行動から本人の希望に沿えるよう検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にセンター方式A～Bシートを記入していただき、それを機に継続的なケアを心がけています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを支えながらも現在の状態把握にも努め、また新しい発見などを次につなげられるよう努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を月3、4回開き、本人や家族と話し合いをし、意見を共有した中でのケアプランを作成しています。	毎月のモニタリングを行なう中で、日々の記録や職員の情報を通し、本人や家族の意向を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロアミーティング、日々の記録に力を入れ、誰が見ても状態を把握できるように努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経営母体の医療機関や併設の通所介護事業所など、他部署と連携し支援をしています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者のニーズに応じたボランティアの活用をし、楽しんで過ごして頂けるよう支援し、また町内の子供みこし、幼稚園の訪問もあり、楽しむことができるよう支援しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が週1回、看護師が週2回状態を確認しており、また整形外科、歯科の往診に来ていただき対応していただき、日ごろのケアの気付き、情報提供等随時行っています。	本人や家族の希望するかかりつけ医の定期受診を支援している。定期的な往診、看護師による日常の健康管理やリハビリを行なっている。法人の医療機関、協力医療機関で必要に応じて、休日でも適切な医療を受けられる体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で経営母体に24時間看護師が常勤しており、日頃より看護師と密な連携をもち、医療のアドバイスをもらっています。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	経営母体の医療機関の病棟があり、搬送され早期に対応している。また面会に行き状態を把握し、早期退院につながるようにしています。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に看取りまで行う事を説明し、終身期においては主治医を含め連携を取り、ターミナルケアを行っています。	重要事項説明書に「重度化した場合における終末期の指針」を掲載し、同意書を交わしている。現在まで看取りの経験もあり、看取りに対する職員の意識も高く、利用者、家族の気持ちを大切に医療機関と連携を図り支援に取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて緊急時の対応を学び、マニュアルを作成、職員一人ひとりが実践を身に付けるようにしています。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防団に声を掛け消防訓練を実地し、全ての職員が役割、理解できるように努めています。	緊急時対応マニュアルを作成し、消防署の協力の下2回昼夜想定し、利用者も参加し避難訓練を行っている。自動火災通報装置、スプリンクラー、防火扉等防災設備を備え点検も行っている。	事業所の立地からも災害時には、近隣住民との協力が不可欠である。地域の協力については、運営推進会議を通し町内会に依頼し、職員は戸別に参加を呼びかけているが参加までには繋がらない。今後も地域へ働きかけ、協力体制が確立されることを期待する。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ馴れしくないよう敬語を使い、プライバシーの配慮、個人情報は持ち出さず記録等はシュレッダーにて処分するよう対応しています。	個人情報取り扱いに関するガイドラインを遵守し、個人情報の利用目的を明示している。日常においては、利用者の人格や自尊心に配慮した声かけや対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を聞き、できるだけ希望に沿えるような取り組みをし、センター方式D-1のことができること、できないことシートを記入、職員把握できるようアセスメントなどで引き出せるようにしています。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の生活リズムを大切に、充実した生活が送れるようケアプランを作成し、対応しています。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日整容を意識し、また整容する効果で入居者が生き活きとされることを大切にしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者と一緒に準備や片づけを行っています。また肉が嫌いな方には魚を提供し、本人に合わせた工夫を行っています。	食材の配達は委託しているが、お菓子や飲み物は利用者と買い物に行っている。菜園で収穫した野菜で利用者とおやつ作りをし、楽しみながら食べる支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもとカロリー計算もされているメニューが作成されている。また一人一人の水分量がおおよそ決まっており、食事その人その人に合わせて栄養バランスを考え取っています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人に合わせた口腔ケアをし、週2回入れ歯の消毒をしています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見ながらのトイレ誘導をし、排泄パターンを把握しています。リハビリパンツではなく布パンツを使用し、皮膚のただれ防止にも努めています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけに配慮し、日中は布パンツを使用しオムツに頼らない自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取るよう気を付け、一日の水分量を記入している。また排便が4日以上出なかった場合経営母体の医療機関に連絡し、下剤の調節等を行っています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個々の要望を聞き入浴していただいています。	入浴日以外でも利用者の希望に沿って入浴することができる。入浴は一人ひとりの体調に配慮し、希望やタイミングに合わせた支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	短い時間でも休息していただき、状態の悪い時は居室にて臥床していただいています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情があり、職員が常に見れる所に設置し、また症状の変化については主治医に連絡し早急に対応しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カンファレンスをし、本人の意欲の向上につなげる取り組みとしてトランプやパズルを行ったり体操、音楽療法を取り入れ入居者と職員が一体して楽しめるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞き外出して買い物などを行っています。また家族の協力も得て外出されている入居者もいらっしゃいます。	季節や天候、利用者の希望や体調に応じ、散歩や買い物、銀行や喫茶店、外食など外出の機会を多く持てるよう支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もいらっしゃり、個々に合わせお金が所有できるよう支援しています。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に手紙や電話のやりとりができるよう支援しています。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾り季節感を取り入れたり、光の強さをブラインドにて調節したり、テレビ、職員の会話のトーンが大きくならないように配慮しています。	明るい居間には、季節に合わせた飾り付けや置物が置かれている。廊下は広く、トイレ・浴室などは介護しやすく配置されている。また、台所やトイレは掃除チェック表を使い、利用者がいつでも気持ち良く使えるよう配慮されている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置、ホールにテレビを置き、談笑できる場所を常に提供しています。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具等を持ち込み使用していただいています。また各居室に必ず洗面台、クローゼットが付いています。	各居室には備え付けの洗面台やクローゼットのほか、使い慣れた家具や、家族の写真が飾られている。ナースコールが設置され、居室で一人の時間も安心して過ごすことができるよう配慮されている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	喫煙室が2カ所あり、車いすが2台並んで通れるスペースを作り、自由にどこにでも行けるようホールから居室まで手すりが設置されています。			